

一般財団法人インターネット協会

第3回インターネット利用手記を募集中

応募締切:平成 28 年 11 月 30 日(水)

	①インターネット使いこなし部門	
	②インターネットトラブル克服部門	
	③親子のルール作り部門	
	④青少年のインターネット利用部門	

①インターネットを使って友だちや家族とのつながりが深まった②インターネットでトラブルに遭ったけれどこうやって克服した③子どものインターネット利用ルールを作るために奮闘した、④青少年目線で考えたルールや学校でのルール作り等の手記を募集しています。優秀作品を選考しインターネット協会のウェブに掲載します。利用者や関係者の啓発活動の参考にしてもらうことを目的とします。皆さまよりご応募をお待ちしております。

1. 応募対象: インターネットを利用する方ならどなたでも
2. 応募文字: 800~1,600 文字程度、マンガや写真を挿入しても可。
3. 選考結果: 平成 29 年 1 月発表予定
4. 賞金賞品: 最優秀者4名(賞金5万円、賞品)、他複数名へ賞金・賞品を贈呈

応募したいと思われる方は、
下記の一般財団法人インターネット協会のホームページをご覧ください。
お問い合わせ: 電話 03-5844-6842 大久保、小南、島田

<http://www.iajapan.org/contest/>

第2回コンクール最優秀作品より →手記の全文はウェブで

① インターネット使いこなし部門「きっかけ」

内向的で人と話すのが苦手な10歳離れた妹のために、著者がインターネットの力を借りてみる。アバターという自分の分身を使ってネット上で交流ができるSNSで、妹のアバターを作成してあげたところ、妹はすぐに夢中になった。そして、ネット上でなら冗談を言えるくらい饒舌になり友達が出来、ついには直接人と会う「オフ会」に参加するまでに。

その後、妹は自分で接客業という驚きの仕事に就くまでになり、今でも働き続けている。インターネットの世界から実社会へもつないでいったミラクルチェンジ。妹思いの姉の努力が実ったほのぼのとさせる傑作である。

② 親子のルール作り部門「コミュニケーション」

家族が唯一集まる夕食の時間でさえも、部屋に響くのは家族の笑い声ではなく、携帯の通知アラーム音に変わってしまった。ある日、親に「携帯に依存してない？」と言われた。なぜ手放せないのか理由がわからず、親に聞いてみると「使っているときはずっとゲームをやっているよ」と、ひと言。それをきっかけに、家庭でルールを作った。決めたルールは3つと少ないが、依存がなくなり家族との会話が増えていき、人とのコミュニケーションの大切さを自覚した手記。

3つのうちの1つのルール「食事時間は、自分の部屋に携帯を置く」はとても思い切ったルールで、ここまで徹底すれば、生活にメリハリがつくことだろう。付随して著者の友達も依存しなくなったのではと想像が膨らむし、誰もが真似ができそうなルールの好事例である。

④ 青少年のインターネット利用部門「たった一つの大切なルール」

小学校6年生より携帯電話を使いはじめた。自分のありのままを相手にぶつけて、相手を尊重することを忘れて高校生まで続いていた。高校生になってもTwitterを掃きだめとして言いたい放題投稿。ある時、部活のチームメイトと喧嘩し、悪口をTwitterに投稿すると、そのチームメイトから直接「言いたいことがあるなら直接言ってくれない？」と言われ、友人を失うことに。このたった1つの過ちをきっかけに、たった1つのルールを決めた。「本当にこのメッセージを送っていいのだろうか？」と、心の中で自分に問いかけること。

この1つのルールは最後の砦だと結論する。失敗しなければわからなかったことかもしれないが、自分の失敗から素敵なルールがうまれた。多くの人になるほどと感銘することだろう。